

肝 MRI

検査日 20 年 月 日

確認者 事前

肝細胞性造影剤を用いた MRI (肝細胞性造影 MRI) 検査に関する問診書

肝細胞性造影剤を使用しても、ほとんどの方では副作用は出ませんが、体質や病状により、まれに副作用が出る場合があります。検査をできるだけ安全に施行するため、下記の質問にお答え下さい。

患者記載欄

一つでも「はい」の場合、原則として造影剤は使用できません

- ① 以前に造影剤を使った MRI 検査を受けたことがありますか？ はい ・ いいえ
- ② ①で『はい』と答えた方へ、その時、副作用はありましたか？ はい ・ いいえ
- ③ ②で『はい』と答えた方へ、副作用の症状を○で囲んでください
(嘔吐・じんま疹・頭痛・ショック・腎機能障害・呼吸困難・意識障害・ほか [_____])
- ④ 過去 2 年以内に気管支喘息の発作を起こしたことがありますか？ はい ・ いいえ
- ⑤ 過去 2 年から 5 年の間に喘息の発作を起こしたことがありますか？ ... はい ・ いいえ
- ⑥ 気管支喘息の治療中ですか？ はい ・ いいえ
- ⑦ 腎機能が悪いといわれていますか？ はい ・ いいえ
- ⑧ 女性の方へ。現在、妊娠している可能性はありますか？ はい ・ いいえ
- ⑨ 体重は何 kg ですか？ (不明な場合はおよその値を記載してください) [_____ kg]

MRI 検査の肝細胞性造影剤使用に関する同意書

このたび、肝細胞性造影剤を用いた造影 MRI 検査の内容、必要性、危険性、合併症、後遺症などについて詳細な説明を受け了解しましたので、造影 MRI 検査を受けることに同意します。なお、この検査を施行している間に、緊急にあるいは医学上の立場から検査の変更、または、緊急処置を行う必要が生じた場合には、医師が必要と認める処置を行うことに同意します(一度同意された場合でも、いつでも撤回することができます)。

患者記載欄

どちらか一方の口に
チェックしてください 造影剤を使用することに同意します
 造影剤を使用することに同意しません

神鋼記念病院 院長殿 20 年 月 日 患者氏名 _____

(ご本人が未成年または署名できない場合) 保護者または代理人氏名 _____ (続柄 _____)

主治医記載欄

造影検査の適応判断 リスクなしー造影検査実施可
 リスクありー主治医が静注して造影検査実施 (静注可能な曜日を依頼欄に記載)
 リスクありー造影検査実施不可 (単純検査のみ実施)

血清クレアチニン値 (検査予定日より 3 ヶ月以内) [_____ mg/dL] 採血オーダー済み

造影検査について説明し問診と同意書の内容を確認しました。主治医 _____

肝細胞性造影剤を用いた造影 MRI 検査を受けられる患者さんへ

あなたが受けられる MRI 検査では、肝細胞性造影剤（薬品名 EOB・プリモビスト）の注射が行われます。この説明書をお読みになり、納得されましたら問診表に記入していただいたうえ、同意書に署名をしてください。ご不明な点は主治医や担当の放射線技師、看護師に質問してください。

1. 造影検査の必要性

* 造影剤は画像検査で診断を容易にするために使用される検査用の薬剤です。今回の MRI 検査では、肝細胞性造影剤というガドリニウムという物質を含む薬剤が使用されます。造影剤は血管内に注射され、全身の血管や肝臓に分布します。造影剤の使用によって病気の性質や血管や肝臓の様子が鮮明に描出されるようになり、あなたの病気の状態をより正確に知ることができ、今後の治療に役立ちます。造影剤を使用しなくても MRI 検査は行えますが、正しい検査結果を得られない場合があります。

2. 造影剤投与による偶発症（一定の頻度で起こりうる合併症）

- * 注射に際して、造影剤の漏れ、末梢神経障害による痛みが起こることがあります。
- * 軽い副作用として、紅潮、吐き気、頭痛、かゆみ、発疹、味覚異常などがみられます。これらの軽い副作用の起こる頻度は、約 100 人につき 1 人（約 1%）です。
- * 一般に造影剤では、頻度はかなり少ないですが、意識障害、血圧低下、ショック、末梢神経障害による激しい痛みなどの危険性があり、死亡される場合もきわめてまれですが報告されています。この薬剤では、これまでに死亡例や重篤な副作用の報告はなされていません。しかし、今後、この薬剤でも出現する可能性が十分にあります。仮に、これらの副作用が出た場合には、治療のため入院や手術が必要となる場合があると考えられます。また後遺症が残る可能性があります。
- * 一般に副作用は注射後 30 分以内に現れる場合がほとんどですが、検査終了後 1 時間から数日の間に遅発性に生じることもあります。
- * アレルギー歴、特に気管支喘息（ぜんそく）、重い腎機能障害、造影剤の副作用歴がある場合には副作用の危険性が高くなります。

3. よくある質問

- なぜ造影剤を使用するのですか？
 - * 造影剤によってあなたの病気の状態をより正確に知ることができ、今後の治療に役立ちます。造影剤を使用しなくても MRI 検査は行えますが、正しい検査結果が得られない場合があります。
- 造影剤をどれくらい使うのですか？ どのように注射するのですか？
 - * 検査目的や患者様の体重にあわせて使用量は変えています。通常 5-10 ml です。造影剤は静脈に注射します。正確かつ高速に注入する必要があるため機械を使って注入します。
- 注射された造影剤はどのようなのでしょうか？
 - * 注射された造影剤は 24 時間以内に半分が腎臓から尿中へ、半分が肝臓から胆管を介して糞便中に排泄されます。
- 造影剤が注射中に漏れたりしないのでしょうか？
 - * 血管外に造影剤が漏れることがあります。この場合には、注射した部位が腫れて痛みを伴うこともあります。通常、時間とともに吸収されて症状もなくなりますので心配ありません。漏れた量が非常に多い場合には、処置が必要となることもあります。まれです。
- 検査前に食事の制限はあるのでしょうか？
 - * 検査予定時刻の 4 時間前から食事をとらないでください。

- * 少量の水やお茶などの水分はとっていただいても問題ありません。ただし、牛乳、ジュースは正しい診断結果が得られなくなる可能性があるためとらないでください。
- * 常用薬は飲んでもよいのでしょうか？
- * 常用薬はふだん通り飲んでください。
- * 肝細胞性造影剤は造影 CT で使用されるヨード造影剤と異なるため、ビグアナイド系糖尿病薬(メトグルコ錠、メルビン錠、グリコラン錠など)を飲まれている糖尿病の患者さんでも休薬の必要はありません。
- 注射を受けた後、食事や入浴などに制限はあるのでしょうか？
- * 注射の後、特に制限はありません。普段通りの生活をしていただいてもかまいません。
- * 尿への造影剤の排泄を促進するため、水分を多めにとりください。
- 副作用はどのような場合に出やすくなるのでしょうか？
- * アレルギー体質の場合には副作用が出やすくなります。特に気管支喘息(ぜんそく)の患者さんでは、重篤な副作用が出やすくなります。
- * また、過去に造影剤の使用で副作用が出た患者さんも副作用の危険性が高くなります。
- * 気管支喘息のある場合や過去に造影剤の副作用があった場合、重い腎機能障害のある場合は、原則として造影剤の注射は行わないことになっていますが、臨床的に必要な場合は主治医の判断で造影剤の注射を行うことがあります。逆に、同意をされている場合であっても、検査を担当する放射線科医師の判断で造影剤を使わない場合もありますのでご了承ください。
- 副作用が出た場合の対応はどうなっていますか？
- * 万一の副作用に対して万全の体制を整えて、検査を行っています。注射中、看護師、放射線技師が常に観察しています。なにか異常がみられた場合には検査を中止し、薬剤の投与など最善の対処を行います。もしなにか異常を感じましたら、ためらわずすぐにお話ください。
- 外来の患者さんで帰宅途中、後に副作用の症状が出た場合にはどうすればいいのですか？

* 速やかに下記の

緊急連絡先

神鋼記念病院代表 078-261-6711

までご連絡ください。

☆ 診療時間内では放射線科検査担当医または主治医が、夜間、休日では当直医師が対応いたします。

神鋼記念病院